

「広島神楽」定期公演へようこそ！

本日はご来場いただき、まことにありがとうございます。

当公演では、全てのお客様に気持ちよく神楽を鑑賞していただくため、下記のルールを設けています。

ご理解、ご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

(1) 座席での飲食は出来ません。ロビーをご利用下さい。

(2) 上演中の立ち歩きや大声での私語など他のお客様のご迷惑になる行為はご遠慮下さい。

(3) お子様連れの方は、お子様が舞台の前に出られると、演出等で危険な場合がございます。着席での鑑賞をお願いします。

(4) 撮影について

→写真撮影は右図の撮影エリアで行って下さい。

※ビデオカメラでの動画撮影、フラッシュの使用は禁止します。

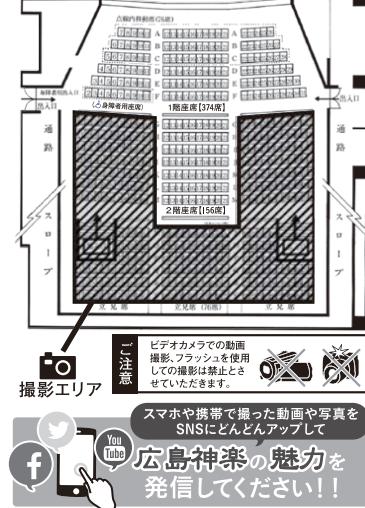
(マスコミ関係など主催者の許可を得ている場合を除く)

以上です。どうぞ、最後までごゆっくりお楽しみ下さい。

撮影エリアについてのご案内

写真撮影をご希望の方は必ず、下記の撮影エリアでお願いいたします。

舞 台



出演：山王神楽団（北広島町）

19:00～開演

19:05～第一幕『日本武尊』
(およそ40分)

～幕間（休憩）～

20:00～第二幕『八岐大蛇』
(およそ40分)

20:45～記念撮影会

衣装やお面を実際に見ていただき、記念撮影をしていただけます。携帯電話での撮影も大歓迎です。

本日の記念には是非ご参加下さい。

また、神楽団との交流もしていただけます。疑問に思ったことなど、直接団員にお聞きください。(舞台へは靴を脱いでお上がりください。)

※記載の時間は目安です。多少前後する場合がございますので、あらかじめご了承ください。

さんおかぐらだん

山王神楽団プロフィール～山県郡北広島町～

明治中期に地元、山末神社氏神祭に神楽を奉納するため、神社周辺の人々によって「下本地神楽団」として発足した当神楽団は、昭和25年、神社に奉られている「山王権現」から名を頂き「山王神楽団」となり、現在に至ります。近年においては、ロシア・サンクトペテルブルグ建都300周年に千代田混成神楽団の一団体として参加しました。また、日韓芸術交流公演で韓国コリアンファンタジーとともに、国立劇場にて公演させていただいたりと、県外の公演にも力をそいでおります。

練習の都度、あるいは公演の都度「演技の枠をかたむけて」を目標に、今後も芸の修得に取り組み、伝承、保存に努めてまいります。ご支援、ご指導の程、宜しくお願ひ申し上げます。

第一幕『日本武尊』(やまとたけるのみこと)

人皇・第十二代・景行(けいこう)天皇の皇子・倭男具那命(やまとおぐのみこと)は、筑紫一円に強大な勢力を持って朝廷に背く川上梶帥(かわかみたける)征伐の任を受け、九州へと向かいました。

折しも川上梶帥の館では、新築の祝いの宴が催されていました。倭男具那命は女装してその宴に紛れ込んで川上梶帥に近づき、酒を勧めながら機会を待ち、見事、川上梶帥を討ち伏せました。

川上梶帥は「西国において我より強い者などなしと信じていたが、命こそ日本一の武勇者なれば、これからは我が名一字をとつて『日本武尊』と名乗りくだされや」と言い残して絶命するという物語です。

【出演】

大太鼓 … 田坂 真吾	倭男具那命 … 前 翔 太	匪の竹 … 芳信 智也
小太鼓 … 増野 夏海	乙 彦 … 井上 亮	仮の竹 … 栗栖 隆治
手打鉦 … 藤井 英昌	川上梶帥 … 森藤 大輝	紅葉姫 … 森岡 佑太
笛 … 川本 喜美代		

第二幕『八岐大蛇』(やまたのおろち)

古事記の神話を神楽化したもので、昔、高天原を追われた須佐之男命が、出雲の国・簸の川上で嘆き悲しんでいる足名椎(爺)・手名椎(婆)の老いた夫婦と奇稻田姫(くしいなだひめ=八人目の姫)に出会い、その訳を聞き、命は大蛇退治を決意します。

足名椎・手名椎に毒酒を造らせ、やがて現れた大蛇はその酒を飲み酔い伏して眠ってしまいます。命は酔い伏した大蛇を大格闘の末退治します。

この時、大蛇の尾から出てきた一降りの剣を、命は「天叢雲剣(あめのむらくものつるぎ)」と名付け天照大御神に捧げ、めでたく奇稻田姫を妻とするという物語です。

【出演】

大太鼓 … 中川 克也	須佐之男命 … 前 翔 太	大 蛇 … 可能な限り出して頂くとのことです。
小太鼓 … 井上 亮	足名椎 … 藤井 英昌	
手打鉦 … 是角 健二	手名椎 … 山村 真理	
笛 … 川本 喜美代	奇稻田姫 … 増野 夏海	

※出演者は予告無く変更になる場合がございます。